



小郡市立大原中学校だより

大為小積



令和3年 師走 24日
第22号
校長 矢野 晴一

学校教育目標：「自ら考え、自ら判断し、自ら行動しようとする子どもの育成」※「考動」

「2学期を振り返って！」

「考動」の日々、「積小」の日々、「つながり」の日々



時の流れは早いもので、令和3年度も2学期終業式の日を迎えました。

今学期も、さまざまな制限を余儀なくされましたが、保護者のみなさま、地域のみなさまには、常に本校の教育活動を支え応援していただいておりますとともに、子どもたちのことを温かいまなざしで見守っていただいておりますことに対し、心よりお礼を申し上げます。

今、静かに目を閉じるとさまざまな場面が思い浮かびます。

9月当初から午後自宅学習の措置がとられ、練習時間や準備の時間が削られる中、**考えぬいてつくりあげた体育大会**、歌うことそのものに制限がかかる中、**力を合わせてつくりあげた文化発表会**、練習試合が全くできない中で**奮闘した部活動の大会**・・・。

子どもたちは、困難な状況の中であっても、常にすてきな輝きを放ってくれました。

その輝きを支えていたのは、決してうつむくことなく、目の前の状況を正面から受けとめ、仲間とともにできることを考えて日々の活動に取り組んだ、小さな努力の積み重ねの姿、まさに本校の合言葉である「**積小為大・つながり・ありがとう**」の具体的な姿だと感じています。

「特別なことをするために、特別なことをするのではない。

特別なことをするために、普段どおりの当たり前のことをする」

この言葉は、イチロー氏の言葉ですが、日常を大切にしながらコツコツと取り組むことの大切さを教えてくれる言葉です。3年生の子どもたちは今、受験に向けて「あせり」や「不安」と闘いながら日々がんばっている真っ最中です。ぜひ、「**あわてず、あせらず、あきらめず**」、あたりまえの日常の小さな努力の積み重ねを大切にしてほしいと願っています。

「睡眠は記憶の要・・・！」 冬休みを元気に過ごすために

以前、東北大学の川島隆太先生の講演で、睡眠についてのお話を拝聴したことがあります。

眠りには「レム睡眠（学んだことの記憶の定着のための浅い眠り）」と「ノンレム睡眠（成長ホルモンが積極的に分泌される深い眠り）」があるそうです。

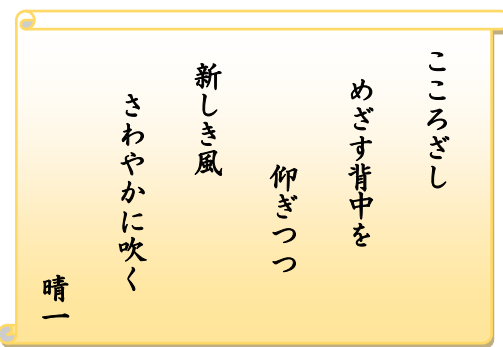
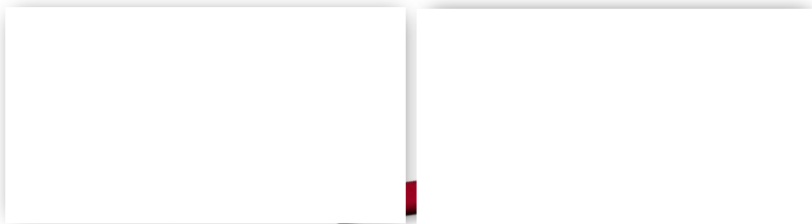
睡眠時間が削られると、記憶の形成や定着にマイナスの影響があるという研究結果が科学的な根拠をもって出されています。

私たちが生活する「一日 二十四時間」という大切な時間をどのように使うのか。二学期の振り返りでイチロー氏の「**普段どおり**」という言葉を用いましたが、**やはり大切なのは、この冬休みも生活のリズムを整えて毎日元気に過ごすこと**ではないかと思えます。



『『繋』の継承・発展を・・・!』 生徒会の櫛をつなぐ

令和4年度の生徒会役員・専門委員長の体制が決定し、12月21日（火）に生徒会役員の引継式が行われました。



【令和4年度 生徒会拡大執行部【敬称略】】

会長・副会長	【会長】	【副会長】
執行委員		
専門委員長	【中央】 【学習】 【給食】 【保健体育】	【環境】 【情報】 【文化】

これまで支えてきてくれた令和3年度のリーダー一人一人から、心のこもったメッセージが送られました。新しくリーダーとなったみなさんには、3年生の思いを心に刻み、冬期休業中に行われる生徒会リーダー研修会において議論をしながら、「どんな学校にしたいのか」「どんな生徒会にしたいのか」という柱についてしっかり考えてくれるものと期待しています。

「そんなつもりはないのだけれど・・・!」 グループという言葉

「学校便り21号」で、私自身の反省を述べましたが、よく考えてみると、「そんなつもりはないけれど、思わぬところで人を傷つけてしまっている」ということがあるように思います。

先日、ある会議が終了した後、地域の方たちと雑談の形でお話ししていたときでした。ある方が・・・

「校長先生、今たくさんのお子どもたちがスマホを持っているでしょう。LINEというのがあるって、子どもたちの中で、グループLINEの名前を『大原中〇年』とか『大原中〇〇』としてメッセージを送り合っているんですよ。数名でのやりとりならまだしも、持っている子のほとんどがやりとりに参加していたとき、持っていない子はとても寂しい気持ちになるのではないのでしょうか。」

瞬間、ドキッとしました。実は、私は、自分の子どもたちが高校を卒業するまでスマホやケータイを持たせませんでした。当時クラスで持っていないのが私の子どもだけだったので、彼らが同じように寂しい思いを味わったことがあっていたので思い出しました。

私たちは、自身の言葉や行動について、「そんなつもりはないけれど、知らず知らずのうちに人の心を傷つけてしまうかもしれない」ということを想像しながら生活していかなければと感じています。大原中は、人と人との心の「つながり」をととても大事にしています。持つことの是非ではなく、持っている人も持っていない人も安心して日々を送ることができるようにしていきたいと思います。

小さいけれど大きな感動 その22 「訪れたみなさんから・・・!」

学校には、たくさんの方が訪問されます。先日、ある高校の先生が訪ねてこられたとき、とてもうれしい言葉をかけていただきました。

「大原中学校には、なぜか来たくなるんですよ！いつもお伺いするのを楽しみにしているんですよ」とのこと。

私が、「どうしてそうお感じになるのですか」と尋ねると、

「よくわからないんですけど、先生方も子どもたちも、なんかあったかいんですよ。なんか来たくなくなっちゃうんですよ。」と返していただきました。

便り20号でもお伝えしましたが、学校の空間にある温かい空気（雰囲気）というのは、校風と言ってよいと思います。校風は、短期間で生まれるものではありません。これまでの歴史の中で先輩から後輩へと脈々と受け継がれてきた「おおはら文化」だといえます。

「みんなやさしい!」・・・この大切な校風をこれからも護っていきたいと感じたできごとでした。

